

平成
23
年度

岡崎学

“岡崎を学び、岡崎を知り、岡崎について考える”

10月29日 土
13時30分～15時10分

中心市街地活性化のいま
—まちゼミ・おかざきバル・商人塾を通して—



岡崎まちゼミの会 代表世話人 松井 洋一郎氏

中心市街地の来街者は25年間で7分の1に減り、中心地唯一の百貨店も昨年1月に閉店しています。こうした中、各店舗の存在や特徴を知っていただくことで、お店や地域の活性化につなげる活動として、三方よしの「得する街のゼミナール」は開催されるようになりました。岡崎発の「まちゼミ」は、今では全国に広がりを見せ、まち創り三種の神器のひとつとも言われる程になってきました。

そんな商店同士の繋がりから「おかざきバル」、「おかざき商人塾」「おかざき☆まちなか合コン大作戦」といった新たな活動も始まっています。

藤井達吉のイマジュリイ (大衆的複製図像)
—単行本や雑誌表紙を中心として—

11月26日 土
10時30分～12時

愛知学泉短期大学 准教授 石川 博章氏

岡崎にゆかりの深い藤井達吉は、日本美術史の中で近年とみに評価が高まっています。この講座では、評価の高い近代工芸における仕事ではなく、むしろ、今まであまり語られてこなかった一面についてご紹介いたします。それは大正初め頃から彼が関与した本に関する複製図像(イマジュリイ)です。言葉を換えれば現代でいう書籍の装丁に関する仕事です。いろいろな背景を説明しながら、実際の作品をスライドでお見せし、話を進めてまいります。



12月24日 土
10時30分～12時

石工の思い



愛知産業大学 教授 大野 幾生氏

古来より岡崎には石職人が住み、その加工技術の高さは全国に知られています。遠い昔に作られた石であったとしても、鑿跡から紐解き、それらを加工した職人の気質や技術力を職人魂として知ることができます。今回は私が見て来た「石の鑿跡道草さんぽ」を紹介したいと思います。自然石とは違う加工された石の素晴らしさや、職人魂、黙して語らずだんまりを決め込んだ石の愛らしさ。端座する石や石職人の思いと出会いませんか。

武士を魅了した万年青(おもと)の魅力

1月14日 土
10時30分～12時

宝生園 水野 圭子氏

おもとは学名「Rohdea Japonica」で日本の名前が入った唯一の植物です。語源は、大分県にある「宇佐神宮」の奥社、「御許山(おもとさん)」に自生していた事からと言われています。又、徳川家康が江戸城入城の折に万年青を持参した事から江戸時代は武士の間で栽培され一大ブームになります。江戸時代は色々な植物の園芸文化が開花した時代であり、勤勉な日本人の気質のもと品種改良が進み独自の園芸文化が築かれました。そのおもとが現代にまで多くの人を魅了してきた話です。



1月28日 土
10時30分～12時

八丁味噌の伝統を守る



株式会社まるや八丁味噌 代表取締役社長 浅井 信太郎氏

地域には各々の人々に守られてきた文化や伝統がある。私たちの岡崎にも「八丁味噌」が多くの人々によって守られ、既に400年以上の年月、幾多の危機に遭遇しながらもとにかく継続してきた。旧東海道に面して旧八丁村で2社の蔵元1)カクキュー八丁味噌 2)まるや八丁味噌 が今も変わらぬ味を造り続け、各々の蔵ぐせを今の時代に生かしながら事業を継続している。

岡崎と関わる方々が日本の何処にいても、「八丁味噌」が自分の故郷の逸品と誇れるよう、信頼をいただけるよう先人に忠実にしています。多くの方々のご支援とご支持に深く感謝し、伝統を守りながらお話できることを願っています。

会場

岡崎商工会議所
中ホール(2F)
(岡崎市竜美南1-2)

受講資料代

1,000円(5回通し)

■学生無料 ※当日学生証等をお持ちください。

※4回以上出席の方に、修了証を発行いたします。

※受講料を添えて、直接事務局にお申し込みの先着100名様に、昨年度の講演録をさしあげます。

定員

150名(先着順)

お問合せ

岡崎大学懇話会事務局(岡崎商工会議所内)

TEL 0564-53-6190 FAX 0564-53-0101

■主催: 岡崎大学懇話会、NPO法人21世紀を創る会・みかわ ■後援: 岡崎市、岡崎市教育委員会、岡崎商工会議所